

一騎打ちの激戦を制して3選を果たした下市町長の枚(すぎ)本龍昭氏(74)は、町民との対話をさらに大切にすることで「オール下市」を目指す。3期目もこれまでの取り組みを継続し、大きな事業としては令和5(2024)年開校予定の義務教育学校建設を挙げ、下市南小学校跡地利用については今年度中に方向性を決めるとしている。若手職員の育成にも力を入れる3選を果たした枚本町長に町の展望を聞いた。



下市町長 枚本龍昭氏

# 町民との対話をさらに「オール下市」目指す

18年ぶりの選挙戦で66票の僅差での勝利となりましたが、この結果をどのように分析されていますか。

選挙活動中は町民の方から特に批判のような意見もなく「頑張っている町にしてほしい」という声援を頂戴いたしました。接戦になったことについては確かな分析はまだできていませんが、前回選挙のあった8年前と比べ有権者数が約5700人から1000人ほど減少し

たことや、期日前投票が約40%と多かったことなどが関係しているのではないかと考えています。

今回の結果を受けて今後の町づくりについて、変えていこうと考えていることはありますか。

これまで町から「これをしなさい」、「あれをしなさい」ということよりはせず、町民からの「こんなことがしたい」といった意見を吸い上げ、それを町が補助していくスタンスで町づくりを行ってきました。今後もそれは変わりません。町を良くするため対話を大切に、町民とひとつになつて、「オール下市」で頑張っていきます。

12期目の大きな取り組みは義務教育学校の建設になるかと思えますが、そうですね。すでに設計段階に入っています。令和5(2023)年4月の開校を目指して、現在の下市小学校を改築して義務教育学校を建設します。校舎建築期間は令和3(2021)年度から同4年(2022)度の予定です。その間は小学校の機能は旧下市南小学校に移設します。義務教育学校の開校後は小学生、中学生ら約200人が新校舎で学ぶことになります。

義務教育学校で行う小中一貫教育の教科担任制はすでに導入していて、現在、先生たちは小学校と中学校を行き来し授業を行っています。

12期目の大きな取り組みは義務教育学校の建設になるかと思えますが、そうですね。すでに設計段階に入っています。令和5(2023)年4月の開校を目指して、現在の下市小学校を改築して義務教育学校を建設します。校舎建築期間は令和3(2021)年度から同4年(2022)度の予定です。その間は小学校の機能は旧下市南小学校に移設します。義務教育学校の開校後は小学生、中学生ら約200人が新校舎で学ぶことになります。

義務教育学校で行う小中一貫教育の教科担任制はすでに導入していて、現在、先生たちは小学校と中学校を行き来し授業を行っています。

12期目の大きな取り組みは義務教育学校の建設になるかと思えますが、そうですね。すでに設計段階に入っています。令和5(2023)年4月の開校を目指して、現在の下市小学校を改築して義務教育学校を建設します。校舎建築期間は令和3(2021)年度から同4年(2022)度の予定です。その間は小学校の機能は旧下市南小学校に移設します。義務教育学校の開校後は小学生、中学生ら約200人が新校舎で学ぶことになります。

義務教育学校で行う小中一貫教育の教科担任制はすでに導入していて、現在、先生たちは小学校と中学校を行き来し授業を行っています。

12期目の大きな取り組みは義務教育学校の建設になるかと思えますが、そうですね。すでに設計段階に入っています。令和5(2023)年4月の開校を目指して、現在の下市小学校を改築して義務教育学校を建設します。校舎建築期間は令和3(2021)年度から同4年(2022)度の予定です。その間は小学校の機能は旧下市南小学校に移設します。義務教育学校の開校後は小学生、中学生ら約200人が新校舎で学ぶことになります。

義務教育学校で行う小中一貫教育の教科担任制はすでに導入していて、現在、先生たちは小学校と中学校を行き来し授業を行っています。

12期目の大きな取り組みは義務教育学校の建設になるかと思えますが、そうですね。すでに設計段階に入っています。令和5(2023)年4月の開校を目指して、現在の下市小学校を改築して義務教育学校を建設します。校舎建築期間は令和3(2021)年度から同4年(2022)度の予定です。その間は小学校の機能は旧下市南小学校に移設します。義務教育学校の開校後は小学生、中学生ら約200人が新校舎で学ぶことになります。

義務教育学校で行う小中一貫教育の教科担任制はすでに導入していて、現在、先生たちは小学校と中学校を行き来し授業を行っています。

## 義務教育学校建設、跡地利用に若手職員の声も



改築して義務教育学校が建設される下市小学校

1町内の経済活性化へはどのような取り組みをされていますか。

現在3000円の購入で7000円分使用できるプレミアム付商品券を12月24日まで販売しています。すべて使ってもらえれば約3億円のお金が町内で動くことになり。これは下市町だけで考えてもらえればかなり大きな金額です。

1義務教育学校建設以外で、現在考えられていることはありますか。

義務教育学校が完成した後の話になりますが、火葬場建設や庁舎の整備を進めていければと考えています。

また、これは現在進めている話になりますが、「共同店舗化」として今年4月に大淀町へ移転された南都銀行下市支店の跡地に来年4月開業予定で、ならコープさんが入りま。これは南都銀行さんとならコープさん、下市町の3者協定のもとに行います。大きな商業施設が来ていただけることに加え、そこが核となって地域活性化に繋がることにも期待しています。

1県内で新型コロナウイルス感染症が増加傾向にあります。町の地場産業などはどのような状況ですか。

新型コロナウイルスの影響で、下市町の地場産業の箸や三宝も打撃を受けて、現在もそれが続いています。それぞれの企業で付加価値を付けた商品開発を行い、木材加工の技術を活かした職人技で、一枚の木を曲げてトンゲやドリップコーヒーを淹れる時に使用するコーヒードリッパースタンド、ごみ箱や小物入れとして使えるマルチボックスなどを作成して販売しているところもあります。

平原(へいばら)地区ではレモングラスを栽培していますが、それを使用した石鹸やマスクに吹きかけての利用を勧めているアロマスプレーなど今の新型コロナウイルス感染拡大の状況に適した商品開発を行っています。



感動のそばに、いつも。